

POSTSCRIPT MEMBERS

今年、長年にわたりOMUTA BRIDGEの活動を共に進めてきた大切な方が急逝されました。あまりに突然の知らせに涙が止まりませんでした。思い出は数えきれないほどありますが、ふと、よみがえるのは、その方が好きだった沖縄の話です。

「砂浜に海水が徐々に染みわたって、水たまりがぽつぽつと出来ていくやろうが。いずれそれがつながりあって、まあくぶわーっと広がって海になっていく。活動っちゃうのはそういうもんやなかかなと思うとたい。大牟田の活動もそげんやっていずれ大きく広がっていくっちゃなかかな。」

これまで私たちが歩んできた道のりが、その言葉と重なります。今年も、PREISに参加する子どもたちは、自らの想いや「好き」を社会に向けて発信し、フェスなどを通じて自身の将来と向き合う姿を見せてくれました。ばすてるでは、子どもたちが安心して過ごせる場が少しずつ地域に根ざし、市外からも多くの視察を受け入れるようになりました。そして、ジュニアシティーメーカーは2025年大阪・関西万博での発表の機会を得て、来年度からは「OMUTAジュニアシティーメーカー」として、大牟田市の取り組みへと進化を遂げます。

思い返すと、どの取り組みも一人ひとりとの関わりや対話を積み重ね、ゆっくりと時間をかけて形になっていきました。その一つひとつの事業が今では有機的につながり合い、“水たまりがつながり海になる”ような広がりを見せてつあります。

「重ねる」その方が好きでいつも使われていた言葉です。一人ひとりの想いや行動、日々の対話、挑戦、失敗、喜び…そういうものが少しずつ丁寧に重なり合うとき、社会は一人ひとりにとって居心地の良い「私たちのタマリバ」になっていく。そう信じて、私たちはこれからも歩み続けます。



菅原 知之

代表
理事

医療法人C L S すがはら



坂口 明夫

理 事

社会福祉法人甘木山学園



高口 恵美

理 事

西南女子学院大学 非常勤講師
福岡県教育委員会

アドバイザー



坂西 信平

坂西医院内科小児科



坂西 雄太

坂西医院内科小児科



道園 紳行

元中学校校長



豊田 庄吾

元随岐國学習センター長

2024年度 収支報告

収入の部	助成金収入	¥6,324,641
	寄付金収入	¥401,000
	その他	¥164
	合計	¥6,725,805
支出の部	人件費	¥2,314,806
	事業運営費	¥3,129,750
	事業委託費	¥810,985
	その他	¥28,695
	合計	¥6,284,236
経常利益		¥441,569

賛助会員募集

参加方法	対象者	会 費
参加用紙に必要事項をご記載ください 振込用紙をお渡します	本団体の運営活動に対し ご理解とご支援をいただける 個人および団体	3,000円/年 (5月引き落とし)

学生会員

会費は徴収しませんが、団体活動運営に係る実務を一部担います

一般会員

本団体運営に係る実務を担います

賛助会員

本団体運営活動に対するご理解、ご支援、一部協力をいただける個人及び団体

子どもが未来に橋をかける。



<https://www.omutabridge.org/>

| お問い合わせ |

OMUTA BRIDGE 事務局

〒836-0036 福岡県大牟田市小川町30番地1

E-mail: info@omutabridge.org

| 協力団体 | 子ども家庭支援センター あまぎやま



OMUTA BRIDGE
ANNUAL REPORT
2024

OMUTA BRIDGE FESTIVAL

開催日：2024年12月28日(土) 13:30～18:00
場 所：大牟田市イノベーション創出拠点 aurea



2024年12月28日土曜日、年の瀬のこのタイミングでしたが、
これまでいろんな形でご支援いただいていた方々含め、
たくさんの方々にこのようにたくさん集まって頂き、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。
もともとフェスを開催することになったきっかけは、
PReISのメンバーの「自分たちの想いや活動を発信したい」という言葉から動き出しました。
仲間と一緒に、たくさん対話を重ね、いろんな経験を紡いできたメンバー。
それぞれの経験をもとに、社会との繋がりを期待してくれました。

何ができるのだろうか？

子どもたちとOMUTA BRIDGEメンバーの
作戦会議の日々が続きました。「出し物と
かする?」「それはいい!」「勉強会?」「もっとわく
わくするような...」「いつもの活動に大人も交ざ
れるといいね」「いつも通りの延長がよい!」いろ
んな意見を交わし合いながら、

- 1
OMUTA BRIDGEメンバーの
気持ちに触れる機会
↓
シンポジウム
- 2
それを通して子どもも大人も交ざって
対話をする機会
↓
対話の時間
- 3
自分たちの「好き」や「活動」を
知ってもらう機会
↓
マフィンの販売
推しグッズ紹介ブース
- 4
さらに交ざって話をする機会
↓
交流会

という盛りだくさんの計画が創造されて
いきました。

当日までの間、メンバー全員で、それぞれがで
きることにチャレンジしていきました。看板作りや
飾りつけ、マフィンのレシピに包装デザイン、販売
価格などなど...一つひとつをみんなで話し合い
決めていく。決められないことも共有する。会場
を知るために事前訪問してみたり、試行錯誤の
時間を過ごしました。前日の準備でも、それぞれ
ができることを懸命に取り組み、高校生メンバー
が年下メンバーに配慮しながら全体を調整して
くれる、頼もしい姿も見受けられました。

そして迎えた当日...子どもも大人も、全メン
バーが集まって円になってミーティング。「わくわ
くするね」「ちょっと緊張する」いろんな声が聞こ
えてきます。パタパタとOPEN準備を済ませ、いざ
時間になると、年度末にもかかわらずたくさんの
来訪者が!!!



販売ブースも大盛況で、なかなか始められな
かったシンポジウムでは、PReIS、ジュニアシテ
ィメーカー、ばすてるの3つの事業について、日頃
その場を作ってくれているスタッフが話をしまし
た。全体を通じて彼らがどのような想いで関わっ
ているのか、どんな課題感を今感じていて、これ
からどんなことをしていきたいと思っているのか
を語ってもらいました。それぞれ異なるように見
えますが、どの事業においてもスタッフが支援者
である前に一人の人間として目の前の子どもた
ちと向き合うこと、その姿勢を前提とした対話を
大事にしていることが伝えられました。シンポジ
ウム後の対話の時間では、森川すいめいさんを
ファシリテーターにお迎えし、シンポジウムを通
じて感じたこと等を、参加したみんなが安全な場
で一人ひとりの言葉が大事にされるということを体
感しながら、大切な価値が共有されていきました。
シンポジウムでも、この対話の場でも、子どもや
メンバーの若者たちから、居場所の大切さ、人
との出会いを通じて希望を抱くようになったこと、
そして一番大事なことは自らの経験を通じ他の
子どもや若者にもそうした出会いや機会を届け
たいという想いでした。終始、参加者の中で子
どもから大人まで、たくさんの交流が生まれ、多
様な人が交ざる中で会場全体にたくさんの対話
が生まれていきました。みんなでこのような時間
を創れたことはとても嬉しく、そのような場を作
て来てくれたメンバーたち、そしてスタッフのみな
の力や可能性を感じることができたことが何
よりも嬉しいことでした。

参加者の中の一人の方が「大牟田を好きにな
った」と言っておられました。OMUTA BRIDGEが一
つの懸け橋となり、いろんな人を繋ぎながら、こ
の大牟田という街が子どもにとって夢や希望が
育まれる街に少し近づけたのかなと感じた日
になりました。



フェスだよ! 全員集合

やったことないこと、やってみよう!

子どもたちの想いや考えを発信するプログラム

ジュニアリテメーカ

子どもたちが地域の大人と対話しながら、地元の文化に触れながら

自身の想いと向き合い、商品開発や販売活動を通して、自分たちの想いを具現化し、自ら考え選択し取り組む力を育みます。

2023 年度に実施したファーストステージの実践編として、大牟田市立橋中学校 セカンドステージの様態を伝えます。

春

休み前、ファーストステージを経験した2年生を対象に一度目のアナウンスを行いました。しかし参加希望者はゼロ。そこで、改めて取り組みの内容をチラシにまとめ、ゴールデンウィーク明けに配布したところ、一人の生徒が参加を希望してくれました。名前は梅崎湊音さん。自分がやってみたい内容であったこと、志望している学校の学生がプロジェクトに関わっていること、自分が得意なブロックを使ったワークであること、まだ曖昧な将来の夢に対して、何らかの形で有益であると感じたこと—そういった理由でチャレンジをしてくれることになりました。今回の活動を通して好きなことに向き合ってみたい、初めて出会う人間と上手くコミュニケーションを取ることができるかは不安だけどチャレンジしてみたいと、その意気込みを語ってくれました。ともにプロジェクトに関わってくれるのは、スクールソーシャルワーカー植田さん、橋中学校の教員中野先生、また国立有明高等専門学校 正木研究室の正木先生です。こうして、母校の中庭をデザインするというジュニアシテメーカ初めての取り組みが始まったのです。

全体の流れ	計画や見通し	ワークショップを通して中庭の可能性や活かし方について考える
	実験	中庭に実際に物を置いてみたりしながら、子どもたちや関係者にとってより良い環境について考える
	提案	中庭の具体的な計画を作成し教育委員会に提出する



5月22日
水曜日

まずは自己紹介からスタート。名前や所属先、好きな建物や場所、その理由を教え合い、視点を共有しながらお互いへの知識を深めます。「福岡タワー」など、彼女の見えている世界がリアルに伝わってきます。そして、これからの進め方やスケジュールを確認した後、正木先生から今日のミッションが説明され、ワクワクしながら中庭へ。設計に使う概略図にとらめっこしながら「どんな風に見えたら良いんだろう?」と戸惑う梅崎さんに、有明高専の学生さんたちが丁寧に教えてくれます。「入口はこんなマークで書くとわかりやすいよ」「ここには部屋があるから少し凹んでいるね」「こんなところに土管が!」丁寧に観察を続けると様々な気づきが、「以前はここに大きな岩があって昼休みにみんなで座っていました」「上履きに履き替えないといけないけど、工夫したらもっと活用されるかも」と積極的に意見交換が進みます(橋中の他の生徒にも意見が聞けたらもっと面白いのに...)。フィールドワークを終えると、ブロックを使ってより具体的に頭の中のイメージを共有していきます。

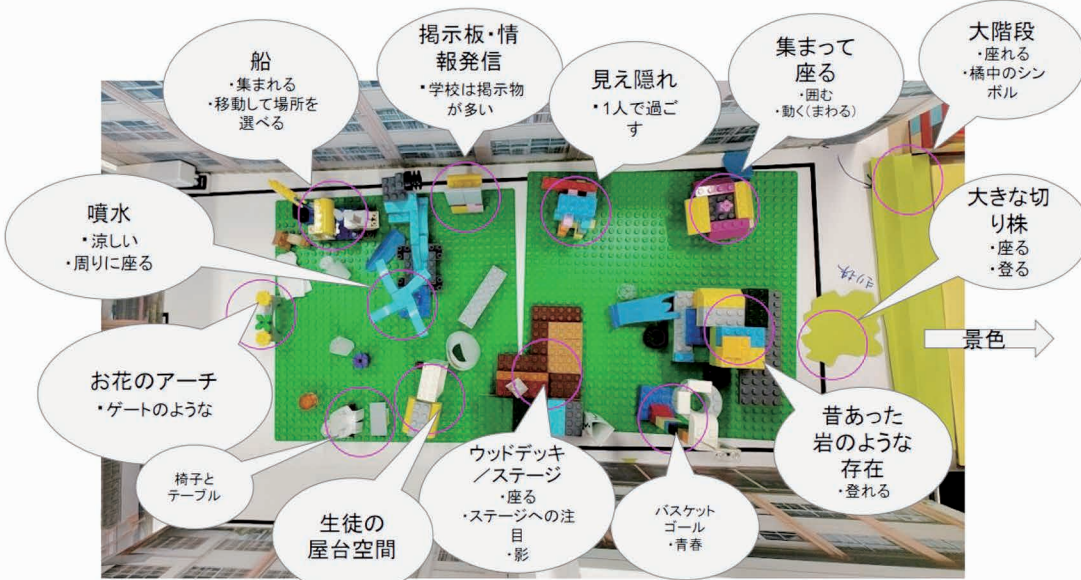
観察時の感想 ●どの部屋に面しているかな ●景観が良いよね ●意外と広い! ●職員室も近いし安全な場所かな

観察後に感じた中庭のイメージ ●どんな環境であればみんなが過ごしやすい場になるかな ●ここに屋根があったら良いね ●階段みたいな座る場所があったら人が集まるかな ●真ん中にステージを置いて窓から鑑賞できたら楽しいかも



6月5日
水曜日

この日は高専メンバーが到着するまで前回の振り返り。梅崎さんが「中庭にあったら良いもの」を周りの人に尋ねてくれていました。教えてくれたのは「噴水」「テーブルとイス」「外で勉強できるスペース」「涼しい場所」「校舎から見れるステージ」などなど。もっとみんなのアイデアもらえたら良いね、ということでアンケートの実施を計画することに。高専メンバーが到着すると、なんと中庭の模型が登場!「ブロックを使ってミニチュアの中庭を作ります」と正木先生。ワクワクしながら作業が始まりました。「ステージに少し段差があると座って話ができるね」「ステージで吹奏楽部が音楽を奏でるのを校舎から見れたら素敵かも」「モニュメントにはすき間を作って、一人のスペースを作るのも良いかも」「テニスコート側の景色は残したいね」「大きな木材も活用したい」「ここにバスケットゴールがあると良いかな」「円になって座る場所も欲しい」「上履きでも活用できるスペースがあると、活用しやすいかな」次々と柔軟なアイデアが飛び出し、有明高専の学生さんも適切なアドバイスをしてくれます。「人が集い、そして安全に過ごせる居場所。中庭にそんなスペースが作れたら素敵ですね。」これからこの校舎で学び、過ごす後輩たちの時間を想像しながら、自分の想いを発信する梅崎さんの表情はとてもイキイキしていました。



6月19日
水曜日

さらにアイデアを募ろうと、先生や生徒にアンケートを実施してみることに。「面白いアイデアや夢のようなアイデアが出てきたら良いな」「多くの声を拾うために答えやすくしたい」議論しながらアンケートの作成について考える時間。「どんな属性の人が何を欲しいと思っているのかが分かるとヒントになるかもしれない」と橋中学校の教員堺先生からのアドバイスも。どんな人が何を欲しているかを知るために、質問内容の工夫も大切だと気付きます。自分の意見をしっかりと発信できるような変化も感じられてきました。アイデアが重なりイメージがより明確になる中で、梅崎さんが学校生活の様子を語り、市役所の職員である八十島さんと井上さんが施設や工事についてアドバイスを、また堺先生が学校のルールを教えてください。ブロックを使ったイメージから、対話の中で具体的なデザインが形作られます。「ここで改めて中庭を眺めてみよう。」「景色を活かしたいね」「花壇を使って、」両手をいっぱい広げて語る梅崎さん。想いを共有した後に見る中庭はまた違った景色が広がっています。結果的に、梅崎さんが考えていた「グリーンカーテン」を使った場作りを通して、人の動きや場の使われ方を実験することになりました。



再利用が可能な
物品の検討

【実験計画】準備期間 (6/20~7/2) ▶ 設置日 (7/3) ▶ 実験期間 (7/4~10) ▶ 振り返り (7/17)

7月3日
水曜日

7月10日
水曜日

前回のミーティングを受けて実施した生徒たちへのアンケート結果が出ました。大きなトラampolineを希望する声や、日陰やミストなど、涼しさや過ごしやすさを求める声がありました。また、「遊んだり発散できる場所」や「友だちと話が出来たりゆっくりと過ごせる場所」、「雨の日に使える中庭」、「上履きのまま行き来できる場所」を求める声も。情報を読み解きながら、イメージが広がります。さらに議論の中では、継続的なアンケート収集でより多くの声を集めては？ポスターを貼ってみては？ワークショップや現場での演奏会の開催など、どんどん発想が湧いてきます。「安全かつ、みんなにも考えてもらう工夫をしていこう」そんな気持ちを共有しながら、「私はワークショップをしてみたいです」と梅崎さんからも積極的な言葉が聞かれます。

また、この日は実際にテントを張っての実地検証もしました。「風が通って涼しいね」「3年生と1・2年生の教室の間にあるので、良いコミュニケーションの場になるのではと思います」と、実際にやってみて初めて分かることも。そんな中、梅崎さんから具体的な提案が次々と出ます。そして、もっといろんな人の声を聞く為に、ワークショップを3つのエリアで実施することになりました。それは(1)インタビューゾーン、(2)絵を描いてみるワークショップ、(3)ブロックを使ったワークショップの3つ。梅崎さんの主体的でポジティブな姿勢は、有明高専の学生さんを中心とした対話の中で育まれているのではと感じます。

7月17日
水曜日

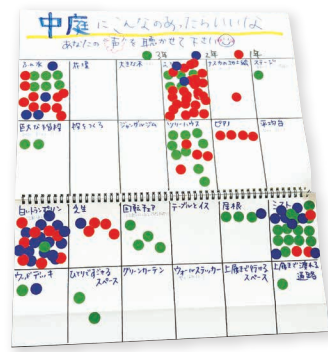
これまでのワークショップで対話を重ね、実証実験などを行いながら描いてきた中庭における大切な「価値」、そしてアンケートなどから聞こえてきた、生徒たちが中庭に求める「価値」、それらをどのようにまとめるのか。いよいよ大詰めです。居場所とは何か？居心地の良さとは？安心感とは？

集ったり、一人で過ごしたり、チャレンジしたり、発信したり、みんなで作っていきけるような余白も欲しい。キーワードを出し合いながら、議論の中でみんなの想いやアイデアが一つになっていきました。これまでのプロセスを、そして導かれた要素やキーワードをまとめ、中庭のデザインをしてくださる設計事務所に報告書をお渡ししました。



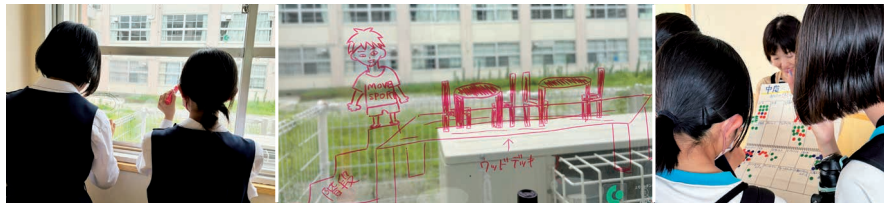
2025年
3月11日
金曜日

今年3月11日、1年半にわたるジュニアシティーメーカーの活動「中庭プロジェクト」報告のため、私たちは大牟田市教育委員会を訪ねました。ファーストステージで、統廃合に向けた改築工事の最中、橋中学校として最後の生徒となるみなさんを対象に行ったワークショップ。卒業生である先輩方が過ごしてきた物語や学校の歴史に触れたこと。様々な想いが息づく校内を探索しながら、自分たちが大切にしたい「居場所」について考えを深め、場のあり方や価値について話し合いプレゼンしたこと。居場所における価値は様々で、それぞれが大切にしたい想いをメンバーに伝えながら、一つの考えを創造する経験を共有してきたこと。またセカンドステージで、教室を飛び出してJCMメンバーや有明高専の建築科の先生や学生さん、市役所の職員なども交じり合いながら、「私たちの居場所は私たちが作る」をキーワードに新しい橋中の中庭をデザインする「中庭プロジェクト」が始動したこと。学校の仲間にも意見を聞き、それを取り入れるために工夫してきたこと。そんな生徒たちの意見や想いが目一杯詰まった提案書を、教育長に提出することができました。



7月10日、この日はファーストステージにご参加いただいた宅峰中学校のスクールソーシャルワーカー杉本さんが駆けつけてくれました。当時2年生だった3年生の生徒たちは「お久しぶりです!」と嬉しそうに声をかけてくれます。中庭にあったら嬉しいと思うものにシールを貼って欲しいとお願いをすると、どの学年も興味を示してくれます。「これって実現するの?」という質問には「完全にはないけれど、今ここを使っている皆さんの声を設計士さんに伝えることが大切なんです」と説明すると、「それならこんな意見も伝えたい!」とシールが増えます。

また、窓に貼ったフィルムの上にイラストを描いてアイデアを表現・共有します。屋根付きのテラスやトラampoline、お城が設置され、「こんな場所があったらワクワクするね」「友だちとこんな風に過ごせたら良いな」と、いろんなアイデアが生まれてきました。彼らの大切な想いは、最終的な報告書に盛り込む予定です。



設備の案 ●噴水：ハートフルーム（教室に入りにくい生徒が過ごす部屋）、楽しめそう、涼しげ、心地良さ、癒し、おしゃれ ●ベンチ：本を読んだり友だちと話したりできる、一人でも過ごせる、くつろげる、外でお昼飯とか食べたい ●トラampoline（公園に置いてあるような大きなもの）：教室でイライラしたときに身体を動かせるとスッキリする、楽しそう、ストレス発散になりそう、いろんな学年の人と遊べそう ●ウッドデッキ（上履きのまま行ける）：仲間と話せる場、気分を変えて外で宿題すればやる気が出そう、地域の人がかつろいでも良いと思う ●屋根があって日陰になるスペースと、上履きで通ることが出来るルート：雨の日でも外の空気を感じることができ、日陰で勉強や読書など楽しめる、中庭を上履きのまま横切れる道があれば行き来が便利になり中庭が活用される ●その他：ステージを作って昼休みに吹奏楽部がゲリラ音楽祭をしたりダンスステージを企てたりしたい、段差のある広い階段があれば、ゆっくり座ってそれぞれに過ごせる場になりそう



(中庭のイメージを視覚化した建築パース)

寄付支援のお願い

大阪・関西万博

「TEAM EXPO パビリオン」で
高校生がOJCMの活動を発表します!!



OMUTAジュニアシティーメーカー（OJCM）は、大牟田市立橋中学校の生徒が授業で取り組んだ中で「よりよい未来」を描きながら同級生や大人と対話を重ね多彩なアイデアをさまざまな形で実現する社会参加型の教育プロジェクトです。令和7年7月18日（金）、大阪・関西万博「TEAM EXPO パビリオン」でOJCMメンバーの高校生が、令和3年度から3期4年間にわたって取り組んできたOJCMの活動を発表します!

世界へ向けた貴重な発表の機会を成功させ、今後の活動に活かします。

発表に向けて、メンバーは対話を重ねています。自分にとって、それがどんな経験だったのか、万博という場で何を伝えたいのか。活動の中では変化と創造を繰り返しましたが、その時の経験は今もなお新たな変化や創造を促していること。大人たちも、子どもたちの「ために」ではなく、子どもたちと「ともに」チャレンジをしてきたこと。自分の気持ちと向き合いながら、それらを言語化していきます。自らの力、人の力を信じ、伝え合うメンバーの姿。大阪・関西万博での発表は7月18日です。



大阪・関西万博にて

JCM の取り組みを
発表します!

今夏、3期にわたるJCMの取り組みを、大阪・関西万博「TEAM EXPO パビリオン」にて発表することが決定しました。それに先んじて、今年2月19日（水）、三池高等学校に橋中学校の卒業生と当時の先生方、三池高等学校の先生方、谷本教育長をはじめ大牟田市教育委員会の職員が集まり、キックオフミーティングを行いました。その中で高校生となった先輩たちは、それぞれが感じている「自分にとってのJCM」についての考えを述べ、全世界に活動を発信するチャンスの到来を喜び合いました。



OMUTAジュニアシティーメーカーが変える!

大牟田の未来

OJCMの活動を通して、持続可能な地域社会の構築を目指します!

若者たちが自らの思いを自由に表現し、形にできる場や機会の提供

OJCMは、他者との協働を通じ、新たな価値を創造していくことができる人材を育成しています。対話を通して、若者たちの力を引き出し、持続可能な地域社会の構築を目指します!



参加した生徒の感想

プロジェクトを通して、「0」から「1」を生み出すことって、子どもでも大人と関係なく、本当にむずかしいんだなって実感しました。でも、やる気と自分の意見があれば、こんないい経験ができるなんて思ってもいませんでした。

参加した地域の大人の感想

子どもたちに寄り添い、思いや主体性を引き出しながらプロジェクトを進めていくことはとても刺激的で、力を合わせて実行する様子に、子どもたちに大きな可能性を感じるをええませんでした。大人もともに遊びながら行く感覚は、新たな未来を予感させました。

OJCMの
VISION

1. 活動の成果をまとめ
仲間とのパートナー
シップを構築する

2. ビジョンを共有する
仲間とのパートナー
シップを構築する

3. 企業や地域と共創し
て、まちづくりに参画
する

地域の皆さまにご助力いただきたい役割

未来を創る子どもたちに必要な力を育む仕組みがOJCMにはあります。地域の子どもたちが、あらゆる壁を乗り越えて多様な機会や経験に出会い、視野を広げ、夢をかなえることができる社会の実現に向け、皆さまのお力を貸してください。

寄付・・・ 1口:1,000円

寄付金の
用途 ●大阪・関西万博での発表や展示に要する諸経費
●OJCMの今後の活動に関する諸経費

お振込先 福岡銀行 大牟田支店 (691) 普通 3432108 一般社団法人OMUTA BRIDGE 代表理事 菅原 知之

お問合せ先 OMUTAジュニアシティーメーカー事務局

●大牟田市教育委員会 〒836-8566 福岡県大牟田市青野町2-3 TEL.0944-41-2867

●一般社団法人OMUTA BRIDGE 〒836-0036 福岡県大牟田市小川町30-1



子どもたちが安心して過ごせる居場所づくり

オフライン寺子屋「ばすてる」

地域の誰もが集える公民館に、ふらりと立ち寄り過ごせる安全な場所をつくりました。

誰かとお話したり、一人でゆっくりと過ごしたり。

参加メンバーといつも滞在しているソーシャルワーカーとで

その日の活動をつくっています。

(ばすてるの担当スタッフより)

1年間を振り返って

昨年度の2月から始まった『ばすてる』ですが、たくさん子どもたちが参加してくれて、さまざまな方に支えられ、無事に1周年を迎えることができました。初めての居場所づくりで、活動時間や対象者など根本的なところから話し合いを行い、どのような環境であれば子どもたちにとって過ごしやすい場になるのか、活動を通してどのような体験を提供することで、子どもたちの成長に繋がる経験となるのかということをとっても考えた1年でした。

スタッフも緊張いっぱい始めたばすてんですが、いざ始めてみると場がどんどん心地良い、のんびりとした、あたたかい居場所となっていました。活動当初はスタッフを基盤としたコミュニケーションが多かったですが、今では子どもたち同士で主体的に話している様子も見受けられ、子どもたちも安心して過ごしているのではないかと思います。また、子どもたちが今抱えている悩み、モヤモヤ、話したいことを発信できる、信頼できる大人が増えてきており、自分の想いを話せるようになってきたと思っています。

子どもたちが抱えている想いを話せる場の1つとして、学校に通っている子の休憩する場の1つとして、次の目標に向かうための場の1つとして、子どもたちにとっての、ばすてるを利用する意味はいろいろありますが、その子にとってのばすてるを今後も続けていけたらと思います。



オンライン寺子屋

(子ども家庭支援センターあまぎやま 篠崎さん)

活動を振り返って

オンライン寺子屋に初期から関わらせていただきました。初めはオンライン開催への不安もありましたが、参加者全員が協力して場をつくり上げたことで安心できる居場所になったと思います。子どもたちが好きなことを話す際の喜びに満ちた表情が画面越しに確認できたりチャットを通じて感情が伝わってきたり、対面と同じように情緒的な交流もできました。好きな参加方法とペースで過ごせることはオンラインの強みでもあり、対面でのコミュニケーションにも良い影響を与えていると感じます。



篠崎さんが「推し活(ドライブ)」中に見つけた阿蘇山の写真。虹がかかっていてとてもキレイだったそう。

○開催方法
オンライン(zoom)
○開催日
毎週木曜日 19:00~20:30

リアルな場である「ばすてる」の開所に伴い、オンライン寺子屋は一旦お休みいたします。コロナ禍となった2020年から始めた寺子屋は、5年間をかけて、大切な思いを聞かせてもらう場となりました。また、時代の変化や必要性に応じて、オンラインでの「在り方」を模索していきたいと思います。寺子屋に遊びに来てくださった方、応援してくださった方、そして活動を支え続けてくださったメンバーの皆様、ありがとうございました！

子どもたちを支援する人のプラットフォーム

なないろリボン学習会

なないろリボン学習会は、子どもたちを取り巻く社会課題への理解を深め、参加者同士の対話を通して他者のそして自分の気持ちと向き合いながら、一人ひとりが自分に何ができるのかを考える場所です。立場や役割、領域を超えてつながり、知恵や工夫を出し合うことで、新たな協働や取り組みが生まれています。このような関係性を紡ぎながら「子どもたちの声を聴き、子どもたちを地域で育てる」そんなまちを目指します。

今年度のなないろリボン学習会は、多様な「問い」に触れながら、このまちで子どもたちが自分らしくわくわくと育つ環境について考えていきました。

森川すいめいさんをお招きして実施した「オープンダイアログ」では、リスニングという相手の言葉にひたすらに耳を傾けるというワーク等、日ごろ私たちが体験することのないようなワークに参加者全員で行い、普段わたしたちがいかに聴くことができていないか、聴くことが難しいかを感じました。また、そうしたことを通して、私たちが安心して答えのない状況に身を置き、自分自身の気持ちに向き合う機会が少ないかにも気付かされました。大人が対話を体感していくことは、その価値を子どもたちに届けることに繋がるのではないかと感じる時間でした。

大牟田市の西田圭範さんをお招きした「大牟田まちなか再生未来ビジョン」では、20年後の大牟田はどうなっているのだろうか？子どもたちにどんな未来を届けたい？そんな問いに触れながら、存分に妄想を膨らまし、文字やイラストや色などで表現し、みんなで共有していきました。いほどり豊かな未来は、聴いているだけでわくわくとするような内容ばかり。できるか・できないかではなく、何を届けたいか、何が大切なのかという話の中で、今は目の前に存在しない未来を描きみんなでアイデアを共有する時間となりました。

当法人 代表の菅原が話題提供を担当した「子どもたちが出会えるまち、おおむたへ」は、地域全体で子どもの発達に応じた出会いや機会を創造している山口県長門市の実践を基に、大牟田では何ができるのか？について考える時間となりました。子どもたちの育ちに合った多様な機会や選択肢がまちに広がることで、多様な価値観やロールモデルに出会い、子どもたちの未来や可能性がぐんぐんと広がっていく。そんな大牟田を創造していきたいという思いを共有する時間となりました。

創造していきたいという思いを共有する時間となりました。

PREISメンバーが発信をしたい、という想いから実現したフェスでもなないろリボン学習会をシンポジウム形式で行いました。法人で実施している事業を、スタッフがどのような想いで取り組んでいるのかについて語り合ってもらいました。途中、会場からも事業に関わっていただいている方々からもエールを頂き、改めて法人が大切にしている価値が地域社会に広がっているという実感を会場全体で共有することにもつながりました。その後の対話の時間では、前段のシンポジウムの発表を受けて感じたことを、多様なメンバーで共有していきました。PREISやばすてるのメンバーをはじめ、ブリッジメンバー、教育関係者、研究者、地域の方、商工業者、行政などなど本当に多様な立場の人たちが、今自分が大切に思っていることや、自分にできることは何かについて、わくわくと話をしていました。会場にはたくさんの笑顔や、子どもたちの声に触れて得た気づきにあふれる暖かな空間であり、大牟田の可能性を感じる時間となりました。

教員である大林凌也さんをお招きした「教育×地域×可能性」では、大林さんが教育に携わることになるまでのご経験や人生に触れながら、これからの教育の在り方について探求する時間となりました。大学で海外の人たちと一緒に暮らし多様な価値観が交ざる環境で、生活を共にしていくために、とにかく対話を重ねることが大切だったというエピソードを聴きながら、改めて対話の重要性について考える機会となりました。私たちのまちの中でも、わかったふりをしながら本当はわかり合えていないという場面も存在しているように思います。そのわかりあえなさから始めてみると、もっと丁寧に対話を紡ぐことができるのかもしれないと考える機会となりました。



開催日とテーマ・登壇者

(開催場所：大牟田市市民活動等多目的交流施設 えるる)

- 4月29日(月・祝)**
オープンダイアログ
●森川すいめい
- 7月6日(土)**
子ども達の未来を考える
●大牟田市まちなか活性化推進室 西田圭範
- 10月12日(土)**
子ども達が「出会える」まち、おおむたへ～大牟田の人・物・環境を再探索～
●OMUTA BRIDGE 代表理事 菅原知之
- 12月28日(土)**
フェスだよ！全員集合 やったことないこと、やってみよう！〈シンポジウム〉 場所：大牟田市イノベーション創出拠点 aurea
●ファシリテーター
子ども家庭支援センターあまぎやま センター長 坂口明夫
●シンポジスト
各事業スタッフ、松本愛美・杉本龍司(ばすてる) 井上由紀・喜多下七海(PREIS)、植田円香(ジュニアシニエーター)
- 2月22日(土)**
教育×地域×可能性 大林先生の「学び」を通して学ぶ
●NPO法人Teach For Japan 9期フェロー 大林凌也

参加方法 団体 Facebook および公式 LINE にて情報発信しています。リーフレットの QR コードより参加申し込みの上、ご参加ください。



子どもたち自身の生活力を高めるワークショップ

子どもサポーター養成講座



本研修は、地域で子ども支援やコミュニティ活動に関わる方を対象に、参加される方が子ども支援に関わる上で役立つ基本的知識、子どもと向き合う上での視点や姿勢などを学び、さらに地域で子ども支援に関わる人のネットワークを構築することを目的としています。

参加者の感想

本研修は子どもに伴走する際の姿勢や視点を学べる内容となっていましたか?という問いに対し、「思わない」から「そう思う」までの4件法でアンケートをとったところ、「そう思う」が77%「まあそう思う」が23%という結果であった。この結果から、参加者が自分の子ども支援や身近な子どもとの関わりに、本研修が寄与できる内容であることが伺える。本研修で取り入れたグループディスカッション（対話の時間）に対しては、下記のようなアンケート結果が見られ、研修を受講するメンバーとの対話を通して、視野の広がりや他者との繋がりを感じる機会となった様子が見えてくる。

●いろいろな方々の意見を聞いて、新たな気づきや視点をもらうことができとても楽しく有意義でした。●知らない方と同じ事について話し合えたので様々な立場の方々とお話をすることで、自分の足りてないところを感じたり、様々な見方ができると気づいた。●周囲の方々の視点を共有することで自分の視野の狭さを知ることができる。意見交換の重要性が分かる。●色々な方とお話して、お話が聞いて面白かったから。●同じ講座を受ける意欲のある方の視点を分かち合うことができ有意義な時間を過ごすことができました。●他の方の視点やご意見に気づきがあったため。●ディスカッション等が不得意で自分の意見をうまく表現できなかった。●ほかの方の意見は参考になったが、自分が「何にも」「子供サポーター」について知らなすぎて、引け目を感じてしまった。●色々な人の意見を聞いて、見方が違うことにびっくりし考えさせられました。●今後またこのような講座があればぜひ参加したいです。ありがとうございます。●まだまだこれからたくさん勉強していきたいです!ありがとうございます。●ものすごくいい取り組みだと思います。子育て中ではない年代の方々が多く参加されることで「地域で子育て」が形づくられていくのだと感じました。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。●フォローアップ研修が楽しみです。ここでネットワークができたと思っています。●子供への対応の方法や、子供だけでなく、自分自身のこと、家族のことに対しての考え方など、改めて考える機会になり、参考になることもたくさんありました。とても勉強になりました。

子どもたち自身の生活力を高めるワークショップ

PReIS (ぷれいす)

「P」ピア(仲間)、「Re」レジリエンス(柔軟性)、「I」アイデア(発想)、「S」セルフエスティーム(自己を受け入れる)の頭文字をとった「PReIS」は自分の力に気づく×生きる力を高めることを目的としたグループワーク活動を行っています。



(子どもたちの声)

わたしにとってのPReIS

こころ落ち着く場所!日常の中で心を休ませて、自分を大切に出来る場所!ストレスを忘れられる。みんなが優しくしてくれて落ち着くし、すごく楽しい!みんながどんな話でも最後まで聞いてくれる!みんなが安心してリラックスして仲良く過ごせる場所!みんなで話したり作ったりして楽しいところ!「大切な場所」楽しかった事、うれしかったことから、悩んでいること、悲しかったことまで、共有したり自分にはないアイデアをもらえるすてきな場所!わくわくがたくさん!新しい経験ができる!実家のような安心感ある心地よい場所!誰かに自分の「好き」を否定されることがないから、安心して自分の好きを話せるし、メンバーの一人ひとりがみんな家族みたいにお互いのことを尊重しあっているから、いつでもここに帰りたいと思える!大牟田の「実家」!ありのままの自分をうけいれてくれるところ!お料理を作ったり、お出かけしたり、みんなでまったりお話ししたり...普段あまりできないことが、たくさん経験できる場所

開催日と活動内容・参加者数

- 4月21日(日) 対話の時間、夢をかなえるワーク、カラオケ (メンバー4名、スタッフ2名)
- 5月12日(日) 対話の時間、音楽鑑賞 (メンバー4名、スタッフ3名+ゲスト)
- 6月22日(土) 対話の時間、未来語りワーク (メンバー6名、スタッフ2名)
- 7月27日(土) 対話の時間、調理活動 (メンバー6名、スタッフ2名)
- 8月31日(土) 対話の時間、そうめん、オンラインで対話、キーホルダー作成 (メンバー6名、スタッフ2名)
- 9月28日(土) 対話の時間、リフレーミングワーク、おやつ作り (メンバー5名、スタッフ3名)
- 10月19日(土) 対話の時間、おにぎりパーティー (メンバー6名、スタッフ3名+ゲスト)
- 11月25日(日) 対話の時間、作戦会議、ホットサンド作り (メンバー7名、大学生1名、スタッフ3名)
- 12月28日(土)、29日(日) フェスの準備、フェス本番 (メンバー9名、大学生1名、スタッフ3名)
- 1月25日(土) 対話の時間、おやつ作り、ボードゲーム (メンバー5名、大学生1名、スタッフ3名)
- 2月23日(土) 対話の時間、調理活動 (メンバー7名、スタッフ3名)
- 3月15日(土) 対話の時間、ワークショップ、アニメ鑑賞、みんなでランチ (メンバー6名、スタッフ2名)

参加方法 クローズドのグループワークになります。まずはメールにてご相談やお問い合わせをお願いします。info@omutabridge.org

